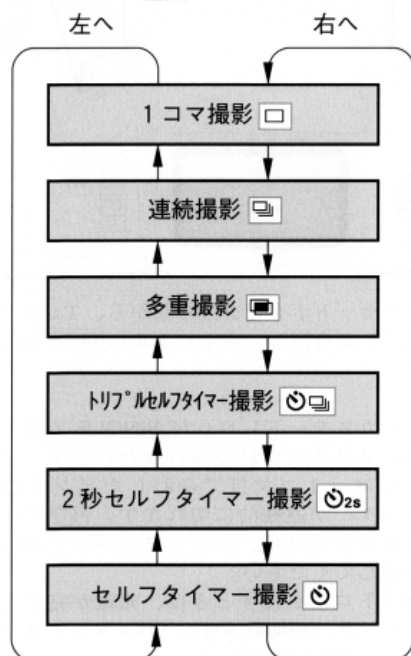


ドライブモードの種類

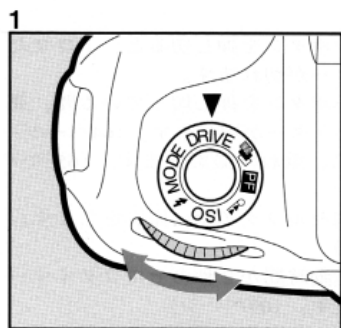


- : シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
- : シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。(64ページ)
- : 同じコマに、重ねて撮影します。(65ページ)
- : 3コマ連続セルフタイマー撮影をします。(70ページ)
- : タイマー作動時間が2秒のセルフタイマー撮影をします。(69ページ)
- : 通常のセルフタイマー撮影をします。(67ページ)

* 電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合はドライブモードは1コマ撮影だけになります。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により、1コマ撮影以外の任意のドライブモードを設定することができます。(75ページ参照)

応用的な使い方

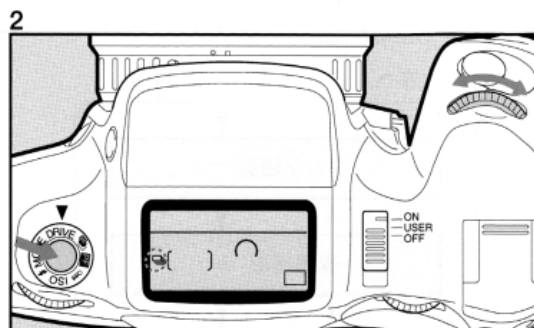
64



1) 連続撮影の使い方

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。

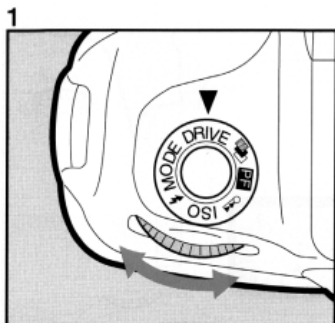
1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。



2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに を表示させます。

- * フォーカスモードレバーが **SINGLE** では、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。
- * 内蔵ストロボを使うときは、充電が完了してからシャッターが切れます。(ペンタックスファンクションNO. 10で変更可)

応用的な使い方

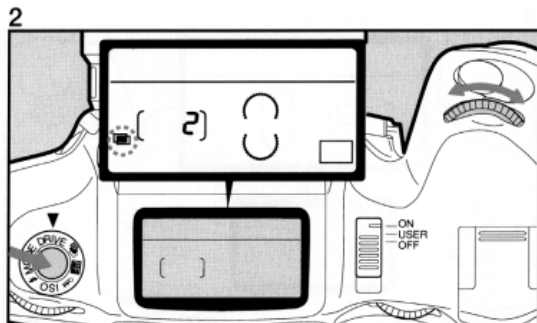


2) 多重露出撮影の使い方

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などをすることができます。

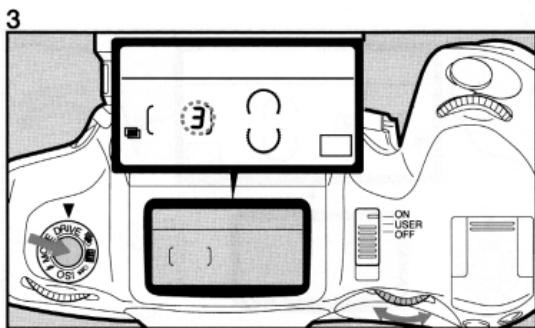
多重露出では、背景が黒いもの(夜景など)に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良好の結果を得ることができます。

1. モードダイヤルを **[DRIVE]** に合わせます。



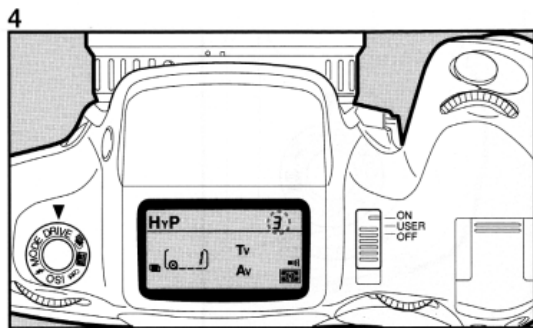
2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに を表示させます。

応用的な使い方



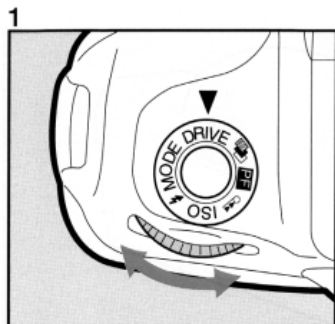
3. モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数(1コマの中に写し込む回数)を決めます。
4. モードセットボタンから指を離すと、設定した回数が表示パネルの右上に表示されます。

- * 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2～9回です。
- * 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。



- * シャッターボタンを押して撮影する度に回数表示は減算されます。
- * 多重露出の途中は、LCD表示パネルの が点滅してお知らせします。
- * 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを **[OFF]** かユーザーポジション **[USER]** にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを **[ON]** に戻したとき、1コマ撮影モード になります。
- * 撮影終了後は多重露出の回数設定は2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影 になります。

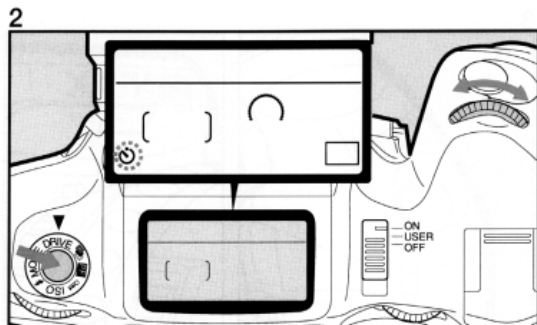
応用的な使い方



3) セルフタイマー撮影の使い方

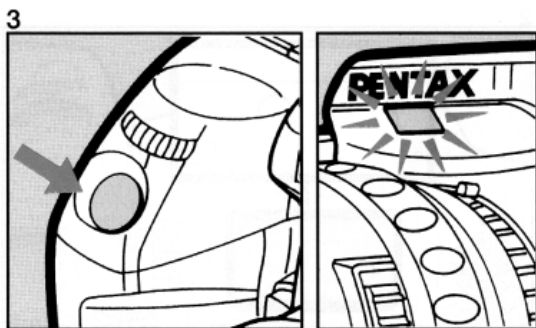
セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせます。

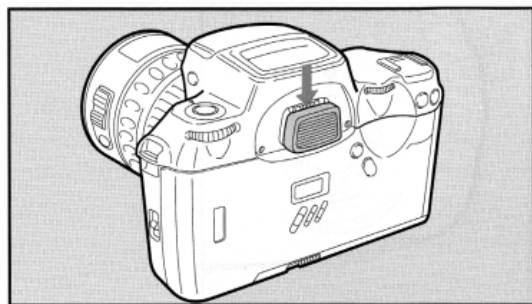


2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルにを表示させます。

応用的な使い方



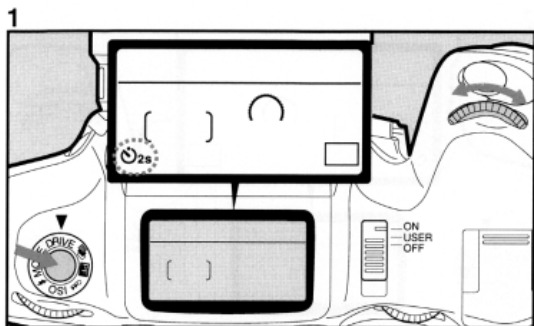
3. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが起動し、約12秒後にシャッターが切れます。



- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。

- * セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。(ペンタックスファンクションNO. 1で変更可)
- * セルフタイマーを起動後に中止したいときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。この場合、セルフタイマー撮影モードは解除されません。

応用的な使い方



4) 2秒セルフタイマー撮影の使い方

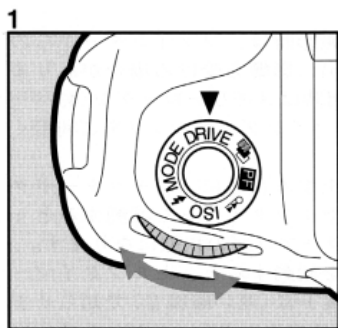
2秒セルフタイマー撮影は、近接撮影や複写などをするとき、ケーブルスイッチFの代用にご利用ください。

1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせ、モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに「2s」を表示させます。
2. 通常のセルフタイマーと同じ要領で、ピント合わせをしてからシャッターボタンを押し切ってセルフタイマーを始動してください。

- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。
- * カメラぶれを防止するために、シャッターボタンを押して2秒セルフタイマーを始動するとミラーが上昇しミラーアップの状態になります。
- * セルフタイマーを始動すると、セルフタイマーランプの点滅と電子音(速い断続音)で知らせます。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)
- * 内蔵ストロボを使用するときは、充電完了を確認してから2秒セルフタイマーを始動してください。
- * セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影□になります。

応用的な使い方

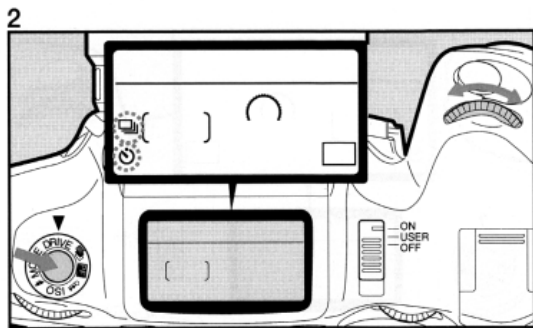
70



5) トリプルセルフタイマー撮影の使い方

トリプルセルフタイマー撮影は、シャッターボタンを押し切った後、約12秒後に3コマ連続撮影ができます。記念写真などで、焼き増しが面倒なときやポーズを変えた3枚の写真を気軽に作ることができます。

1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせます。



2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに「3s」を表示させます。

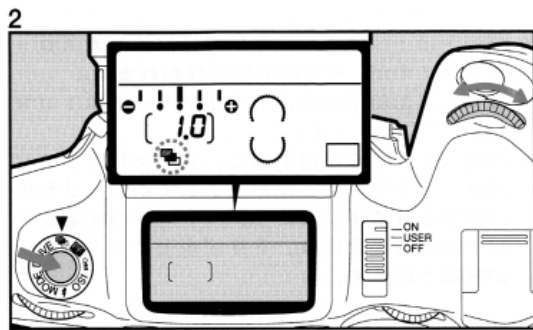
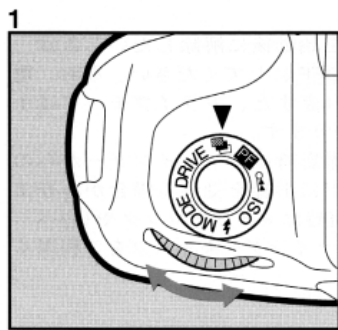
- * 通常のセルフタイマー撮影と同じ要領でセルフタイマーを始動し撮影します。
トリプルセルフタイマーは、次の間隔でシャッターが切れます。
・ 12秒後(1コマ目)→2秒後(2コマ目)→2秒後(3コマ目)

応用的な使い方

- * ピントは1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされますが、測光は毎回行なわれます。
- * 3コマ撮影終了後は、ドライブモードは1コマ撮影  に戻ります。
- * 内蔵ストロボを使用すると、2コマ目と3コマ目は、ストロボの充電が完了してから、2秒後に撮影されます。ただし、ストロボの充電が16秒を超える場合には、トリプルセルフタイマーが解除されます。

- * セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを **OFF** にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影  になります。
- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。

(7) オートブラケット撮影の使い方



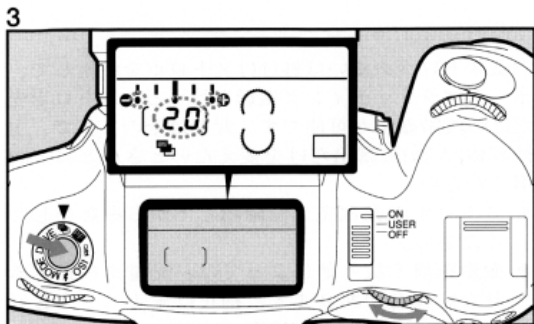
オートブラケットは、撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正值を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。

Z-1Pでは、露出モードがハイパーマニュアルでもオートブラケット撮影が可能です。また、ストロボ使用時(充電完了後)にこのモードを使用すると、ストロボ光のみのブラケット撮影が可能となります。

- * 電源スイッチがユーザーポジション **USER** では、オートブラケット撮影はできません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により使用可能にすることができます。

1. モードダイヤルを  に合わせます。
2. モードセットボタンを押しながら **Tv** ダイレクトダイヤルを回して表示パネルにバークラフと  を表示させます。

- * 解除するときは、バークラフと  表示を消してください。
- * 表示パネルにバークラフと補正值が表示されます。このとき、シャッターボタンを半押しするとファインダー内にもバークラフが表示されます。ただし、露出モードがハイパーマニュアルおよび250(1/250秒)のときのバークラフの表示は、露出計が働いている間は露出のオーバー・アンダーを示す表示がされます。



3. モードセットボタンを押したままA vダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

* 補正は-4 ~ +4 E Vの範囲で0.3 E Vごとに行えます。ペンタックスファンクション設定で、補正量のステップを0.3 E Vごとから0.5 E Vごとに変更できます。(104ページ参照)

* バーグラフの黒丸の移動量1つが0.3 E V(補正ステップが0.5 E Vのときは0.5 E V)に相当します。

ただし、-2 ~ +2 E Vを越えて設定した場合(補正ステップを0.5 E Vにしたときは-3 ~ +3 E V)は、表示パネルのバーグラフの☒(ファインダー内は☒)あるいは☒(ファインダー内は☒)が点滅して知らせます。

4. シャッターボタンを押したままにすると、記憶させた補正量に従って3コマ連続的に撮影されます。

* 1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で撮影されます。

* 絞りがA位置のハイパーマニュアルのときは、ペンタックスファンクションのNo. 6の選択肢の設定内容に応じて絞りとシャッター速度が変化します。ただし、選択肢を3番に設定した場合にはシャッター速度と絞りの両方が変化します。

* 電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。

* 1コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの☒が点滅して2コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンス待つことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの☒は約20秒間点滅した後点灯に変わり、再度1コマ目の待機状態に戻ります。

* トリプルセルフタイマーと組み合わせると、1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で自動的に撮影することができます。

* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)

* オートブラケットング撮影中は、1コマごとに測光を行いません。

* ピントは、1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

ストロボ光のブラケットング

内蔵ストロボあるいは外付けストロボを使用して、オートブラケットング撮影を行うと、ストロボ光だけの段階露出が可能です。背景はそのまま、主被写体[人物]の露出だけを変えたいときなどにご利用ください。

* ストロボの充電完了を確認してから撮影をしてください。

* 撮影距離や絞り値によっては、光量を補正しきれない場合があります。補正は+1 ~ -3 E V程度を目安にしてください。

露出補正と組み合わせる場合

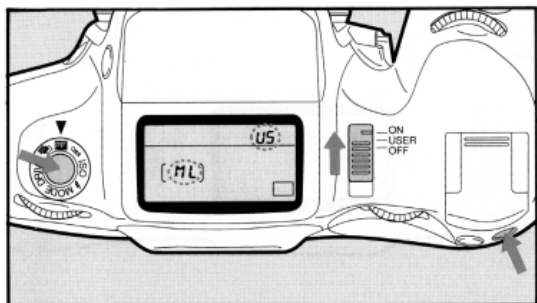
「露出補正」(62ページ)と組み合わせると、例のようにオーバー方向(+)のみやアンダー方向(-)のみの、より高度なオートブラケットング撮影が可能です。

例) オーバー方向だけの補正をかけるとき。

1. オートブラケットングの補正量を±0.3EVに設定する。

2. +0.3EVの露出補正をかける。(62ページ参照)

3. この状態でオートブラケットング撮影をすれば、1コマ目=+0.3EV・2コマ目=±0EV・3コマ目=-0.3EVの補正がされます。



ユーザーセット機能とは、ユーザーが希望する各機能の設定を選択、記憶させ、電源スイッチをユーザーポジション **USER** に合わせるだけでいつでも呼び出せる便利な機能です。

初期状態のユーザーポジションでは、22ページの表の機能しか使用できませんが、ユーザーセット機能により76ページの表にある各機能を選択できます。このように、ユーザーポジションを好みの使いやすい機能に変えることができます。

好みのモードを記憶させます。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. 記憶させたい好みの露出モードを選びます。(44ページ参照)
3. 同様に、記憶させたいドライブモード(63ページ参照)、測光モード(40ページ参照)および内蔵ストロボの機能(92、93ページ参照)を選びます。
4. オートブラケットリングを使用したい場合は、表示パネルに  を出しておきます。(72ページ参照)
5. モードダイヤルを **PF** 位置に合わせ、モードセットボタンを押しながら **ML** ボタンを2秒間押し続けると表示パネルに **HL** と **U5** が表示され、選んだ各モードの内容が記憶されます。

記憶させた組み合わせを呼び出します。

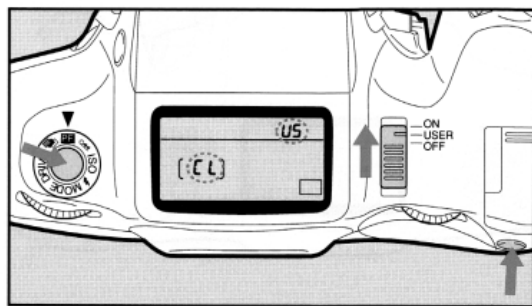
電源スイッチを **USER** 位置にするだけで、いつでも記憶させた組み合わせにすることができます。

応用的な使い方

- * 同じ操作で設定を行わない限り、電源スイッチがユーザーポジション **USER** では、記憶させた機能以外に切り替えることはできません。
- * 電池を入れ替えても設定した内容は記憶されています。

ユーザーセット機能一覧

露出モード	絞りA位置とA位置以外でのおの1つを選択可
ドライブモード	ドライブモードの内の1つを選択可
測光モード	分割、中央重点、スポットの内の1つを選択可
内蔵ストロボモード	先幕シンクロ、赤目軽減、後幕シンクロの1つを選択可
ストロボ光量補正	可(どれか1つでもユーザーセットを行えば使用可)
露出補正	可(どれか1つでもユーザーセットを行えば使用可)
オートブラケットリング	選択可能
プログラムライン	ノーマル、高速優先、深度優先、MTF優先の1つを選択可

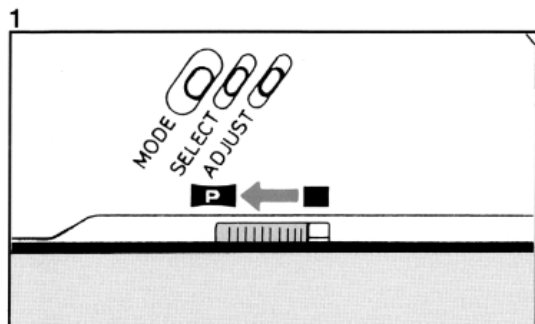


設定をクリアします

電源スイッチをユーザーポジション **USER** にし、モードダイヤルを **PF** に合わせます。モードセットボタンを押しながら **IF** ボタンを2秒間押し続けると表示パネルに **CL** と **U5** が表示され設定がクリアされます。

* このとき電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)

* 電源スイッチが **ON** 位置でこの操作を行なうと、ペンタックスファンクションがクリアされてしまいますのでご注意ください。

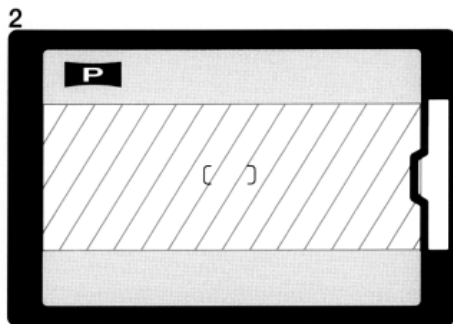


「Z-1P」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチを **P** に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

* パノラマ切り替えスイッチのセットは、パノラマ撮影 か標準撮影 どちらかの止まる位置まで確実に動かしてください。



2. 撮影します

パノラマの視野枠内(斜線部分)に写したいものを入れて撮影してください。

- * シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に が表示されます。
- * プリントする際に画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。
- * パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。

